

姫路港 港湾計画 改訂（素案）

平成31年1月25日

兵 庫 県



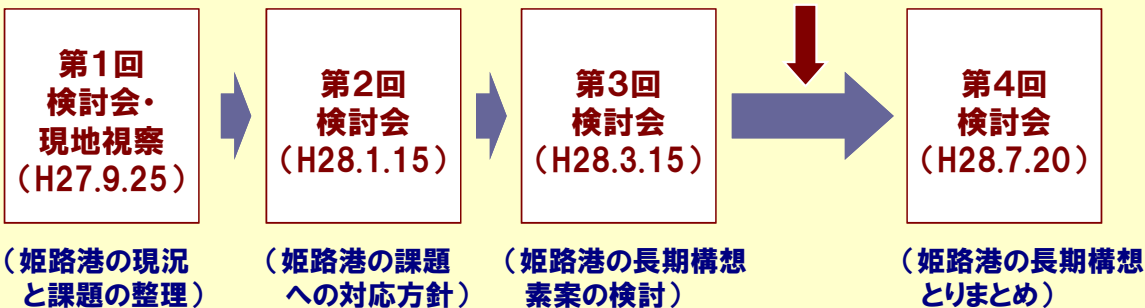
平成27年度

平成28～29年度

平成30年度

姫路港の整備・利用のあり方 (長期構想※1)の作成

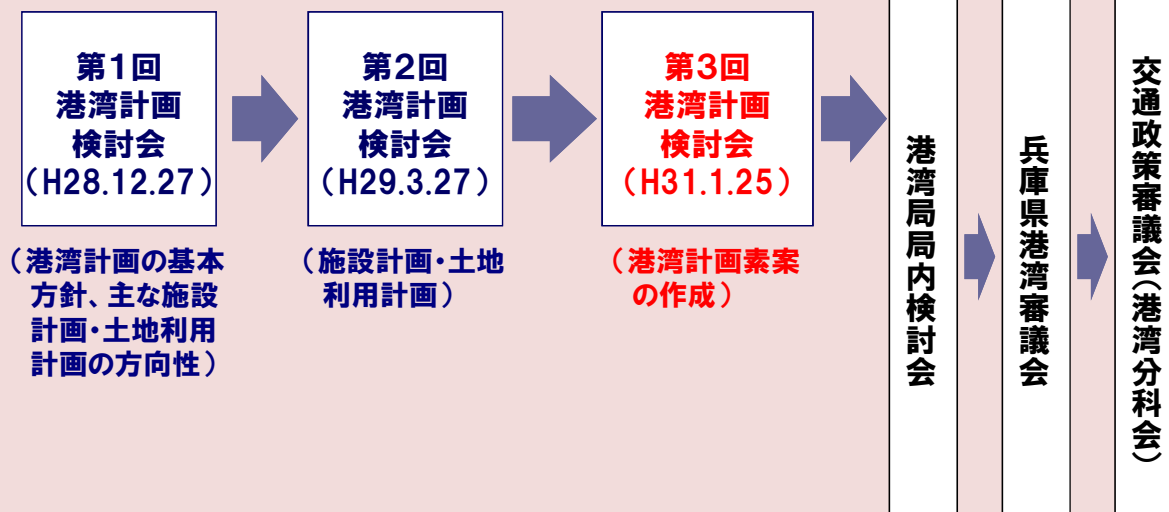
長期構想に関する
パブリックコメント
(H28.6.17～H28.6.30)



※1.平成40年代を目標年次とした整備・利用のあり方を長期的な視点から検討



姫路港の港湾計画※2の作成



※2.平成40年代半ばを目標とし、港湾の方針・能力に応じた港湾施設の規模や配置等を検討

姫路港の将来像（目標年次：平成40年代、概ね15～20年後）

将来像 地域の活力源となる強い産業づくりを支える港

播磨工業地帯の持続的な発展、競争力の維持・拡大のため、背後圏荷主の物流需要に対応した物流機能の強化や、産業用地としての機能を向上させるためのインフラ整備など、背後圏の産業を支える港としての整備・利用を図る。

また、地域経済の活性化と港湾の利用促進のため、関係機関が連携して企業立地を支援すると共にエネルギー拠点にも利用できる開発空間を提供する。

主要施策

- ①広畑地区においてバルク貨物取扱機能を強化
- ②須加地区においてコンテナ取扱い拠点を形成（超長期）
- ③物流の円滑化を図る道路整備を推進
- ④工場・物流施設等の立地を促進
- ⑤エネルギー拠点にも利用できる場を確保

将来像 交流人口の拡大を支える港

姫路港周辺には世界文化遺産である姫路城など多くの観光客が訪れる観光資源があり、また、網干なぎさ公園など地域住民に親しまれている親水空間や歴史的町並み、家島、産業ツーリズムなど魅力ある新たな可能性を秘めた観光資源も存在する。これらの資源にストーリー性を加味し、観光資源としての深化・連携を図り、地域内の住民が愛着や誇りを持てるような交流空間の創出により、交流人口の拡大を目指す。

主要施策

- ①地域内外の人々の交流・にぎわい空間を創出
- ②港と内陸部市街地のアクセス利便性の向上を目指す
- ③姫路港の特色を活かした海のエントランスを整備

理念 播磨とともに港がひかる

将来像 豊かな自然環境を次世代につなぐ港

温室効果ガス排出量削減のためトラック輸送から海上輸送へのモーダルシフトの推進や、循環資源の適正な取扱いの推進により、環境改善を図る。

また、生物の多様性や生産性が確保された「豊かな海」の実現のため、姫路港に残る貴重な自然海岸の保全や干潟・藻場・浅場の造成による自然環境の創出を図る。

さらに内陸の環境改善に資する空間として網干沖地区に続く、開発空間を計画的に確保する。

主要施策

- ①神戸港間の内航フィーダー輸送を促進
- ②循環資源の取扱い拠点として機能強化
- ③自然環境の保全・創出を推進
- ④内陸の環境改善に資する土地の確保

将来像 安全なくらし、安定した企業活動を守る港

発生の逼迫性が叫ばれる南海トラフ巨大地震により、大阪湾は甚大な被害が予想される。大阪湾の港湾機能が麻痺する可能性を踏まえ、姫路港において物流のバックアップ機能の一部と支援機能（避難船の係留等）の確保を目指す。また、災害時における内陸部・家島諸島等の離島への人・生活物資の輸送を確保する。

さらに多くの港湾施設が老朽化を迎える中、現在の利用状況、将来の利用見込み、災害時に機能不全になった場合の背後地域への影響等、総合的な観点から優先順位を設定し、戦略的に老朽化対策を進める。

主要施策

- ①南海トラフ巨大地震を想定した大阪湾のバックアップ機能を確保
- ②災害時の内陸部・家島諸島等への人・生活物資輸送の確保
- ③戦略的老朽化対策を実施

姫路港の整備・あり方（長期構想）と港湾計画改訂での対応

資料2

姫路港の整備・利用のあり方(平成28年8月)		港湾計画(今回改訂)での対応		
分野	主要施策		対応の内容	関係地区
地域の活力源となる強い産業づくりを支える港	①広畑地区におけるバルク貨物取扱機能を強化	既定計画どおり	1. 物流機能の強化	広畑地区
	②須加地区におけるコンテナ取扱い拠点を形成(超長期)	次回以降の改訂で対応		
	③物流の円滑化を図る道路整備の推進	今回位置づけ	1. 物流機能の強化	網干沖地区、広畑地区
	④工場・物流施設等の立地促進	今回位置づけ	2. 開発空間の確保	浜田地区、網干沖地区、広畑地区、中島地区
	⑤エネルギー拠点にも利用できる場を確保	今回位置づけ	2. 開発空間の確保	
交流人口の拡大を支える港	①地域内外の人々の交流・にぎわい空間を創出	今回位置づけ	3. 交流人口の拡大	須加地区
	②港と内陸部市街地のアクセス利便性の向上を目指す			
	③姫路港の特色を活かした海のエントランスを整備			
豊かな自然環境を次世代につなぐ港	①神戸港間の内航フィーダー輸送を促進	ソフト対策(内航フィーダー就航に向けた条件整理、輸送コスト削減方策の検討・実施)		
	②循環資源の取扱い拠点として機能強化	ソフト対策(埠頭用地でのスクラップやリサイクル等、循環資源貨物の適正な取扱を促進)		
	③自然環境の保全・創出を推進	今回位置づけ	2. 開発空間の確保 4. 自然環境の保全・創出	浜田地区、福泊地区、的形地区
	④内陸の環境改善に資する土地の確保			
安全なくらし、安定した企業活動を守る港	①南海トラフ巨大地震を想定した大阪湾のバックアップ機能を確保	対応済み (耐震強化岸壁整備)		
	②災害時の内陸部・家島諸島等への人・生活物資輸送の確保			
	③戦略的的老朽化対策を実施	事業実施中		

<目的> 開発空間の確保

<内容>

- 浜田地区 **工業用地 22.7ha**
- 〔 既定計画 〕
- 海面処分用地 17.7ha
- 港湾関連用地 5.0ha
- 網干沖地区 **工業用地 23.0ha**
- 〔 既定計画 〕
- 港湾関連用地 23.0ha
- 網干沖地区 **海面処分用地 34.3ha**
- 〔 既定計画 〕
- 埠頭用地 27.6ha
- 交通機能用地 1.3ha
- 緑地 5.4ha
- 広畑地区 **工業用地 24.3ha**
- 〔 既定計画 〕
- 港湾関連用地 24.3ha

<目的> 物流機能の強化

<内容>

- 広畑地区、網干沖地区
- (岸壁) **既定計画通り**
- 〔 既定計画 〕
- 岸壁-14m(2バース)(うち1バース整備済み)
- 岸壁-7.5m(1バース)(整備済み)
- (埠頭用地) **既定計画通り**
- 〔 既定計画 〕
- 埠頭用地 14.5ha(うち8.6ha整備済み、残5.9ha)
- (臨港道路) **今回計画**
- 〔 臨港道路広畑線(4車線化)(2車線で整備済み) 〕
- (臨港道路) **既定計画通り**
- 〔 既定計画 〕
- 臨港道路網干沖線(2~4車線)

凡 例			
	岸壁(既定計画)		土地利用・造成(今回計画)
	岸壁(既設)		土地利用・造成(既定計画)
	臨港道路(今回計画)		土地利用・造成(既設・工事中)
	臨港道路(既定計画)		海浜(今回計画・既定計画)
	将来構想		自然的環境を保全する区域

青文字：規定計画通り
赤文字：今回計画



<目的> 交流人口の拡大

<内容>

- 須加地区
- 「公共埠頭計画」、「フェリー埠頭計画」、
- 「旅客埠頭計画」、「外郭施設計画」を位置づけ

将来構想
<内容>
網干沖地区
「公共埠頭計画」、「水域計画」を将来構想

<目的> 自然環境の保全・創出

<内容>

- ・「自然的環境を保全する区域」を位置づけ
(福泊地区、的形地区)
- ・海浜計画を位置づけ(浜田地区、大塩地区※)
- ※大塩地区は既定計画



- 臨海部の産業活性化や、港湾のさらなる利用促進を図るため、工業用地を計画する。
- 浜田地区の未整備の公共埠頭計画については、将来の貨物需要が見込めないことから、計画削除する。
- 網干沖地区の公共埠頭計画については、土地造成が目標年次までに完了しないため、将来構想とする。

【既定計画】

公共埠頭計画(既定計画)
水深7.5m 岸壁1バース 延長130m 泊地3.0ha

埠頭用地(既定計画)
0.9ha

公共埠頭計画(既定計画)
水深5.5~12m 岸壁7バース 延長1,040m
泊地、網干航路、防波堤

都市再開発用地(工事中)
11.2ha(既定計画)

港湾関連用地 23.0ha(既定計画)

港湾関連用地 5.0ha(既設)

海面処分用地 17.7ha(既定計画)

埠頭用地・緑地 34.3ha(既定計画)

凡例

- 新規・変更 ——
- 計画削除 ——

【今回計画】

公共埠頭計画(計画削除)
水深7.5m 岸壁1バース 延長130m 泊地3.0ha

港湾関連用地
(土地利用の変更)
0.9ha

将来構想

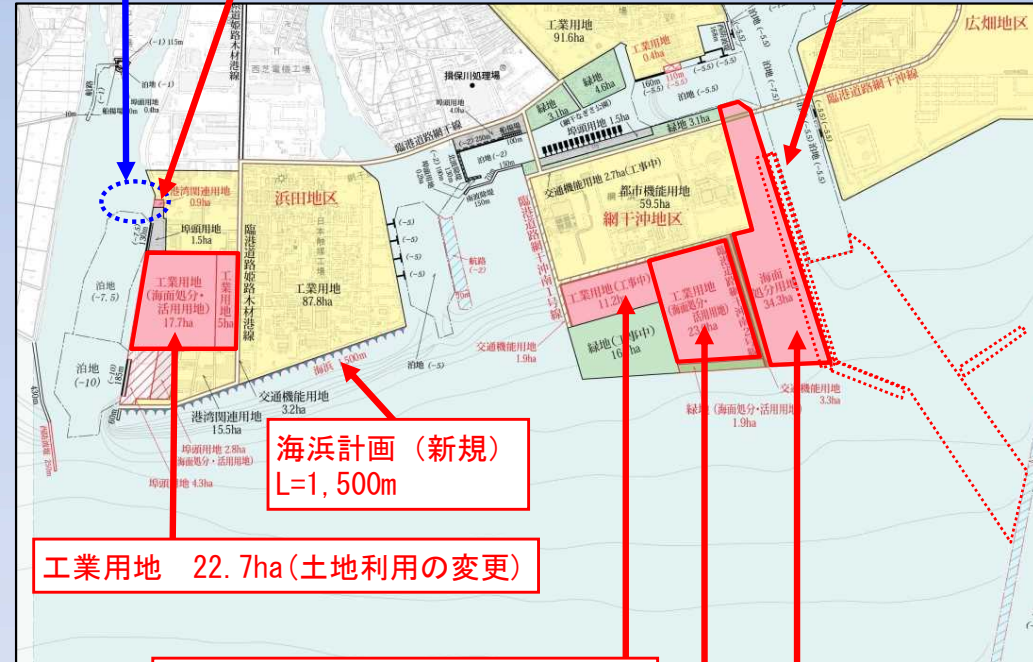
海浜計画(新規)
L=1,500m

工業用地 22.7ha(土地利用の変更)

工業用地 11.2ha(土地利用の変更)

工業用地 23.0ha(土地利用の変更)

海面処分用地 34.3ha(土地利用の変更)



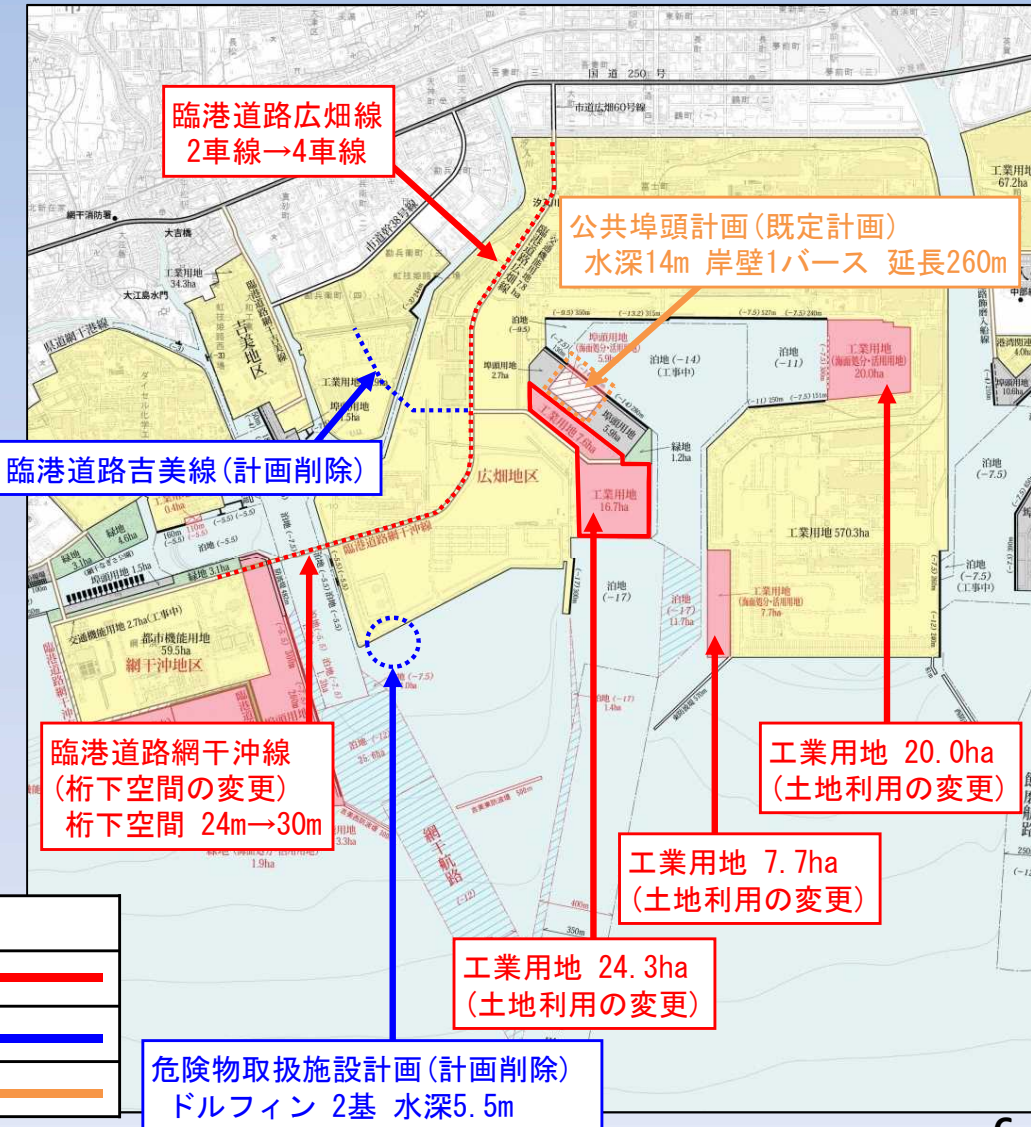
姫路港 港湾計画変更内容（素案）〔吉美地区・広畑地区〕

- 大型貨物船に対応したバルク貨物取扱機能の強化のため、未整備の公共埠頭計画は既定計画通りとする。
- 臨海部の産業活性化や、港湾のさらなる利用促進を図るため、工業用地を計画する。
- 周辺企業等からの整備要望が多い臨港道路広畑線は4車線化するとともに、臨港道路網干沖線は既定計画通りとする。

【既定計画】



【今回計画】



○新たな企業立地が進む広畑地区において、更なる集貨の促進や港内の利便性向上を図るため、以下を本計画に位置付ける。

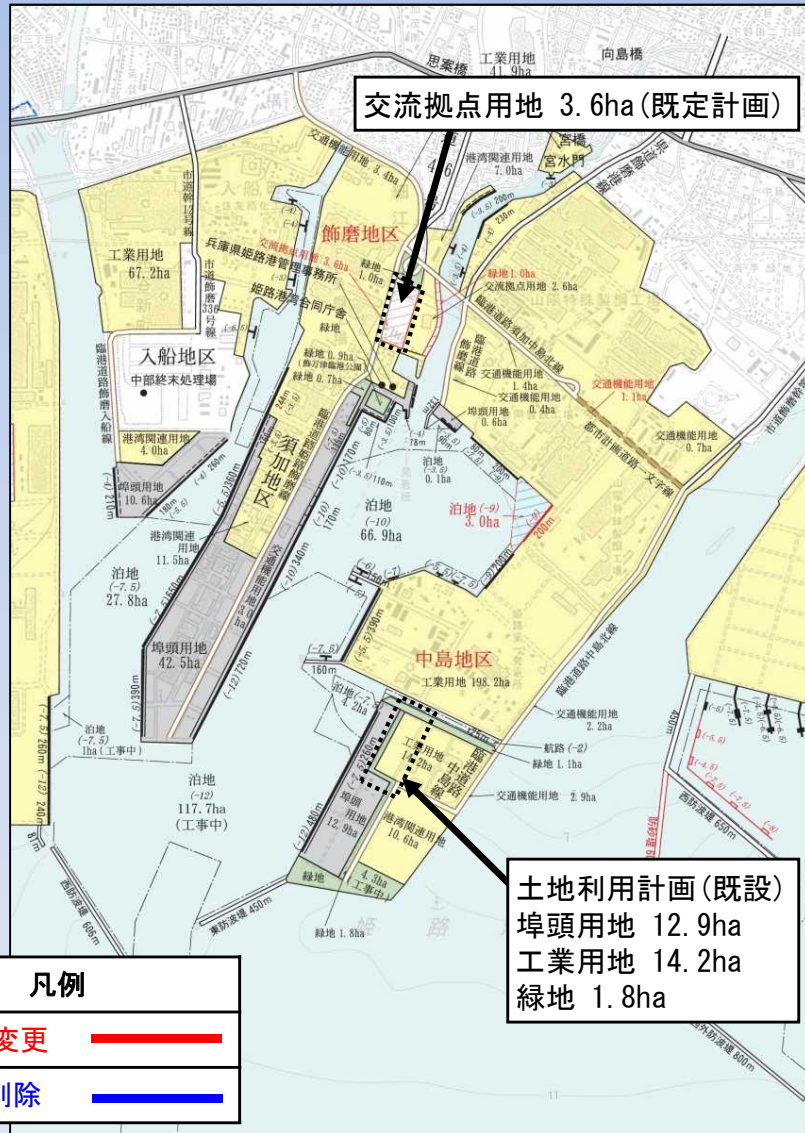
- ①船舶の大型化に対応した**公共ふ頭の整備**（広畑公共ふ頭 -14m岸壁、延長260m）（既定計画とおり）
- ②網干地区と広畑地区の物流機能強化につながる**臨港道路網干沖線の整備**
- ③広畑地区と主要道路との物流機能強化のため**臨港道路広畑線を拡幅**（現況2車線→4車線）



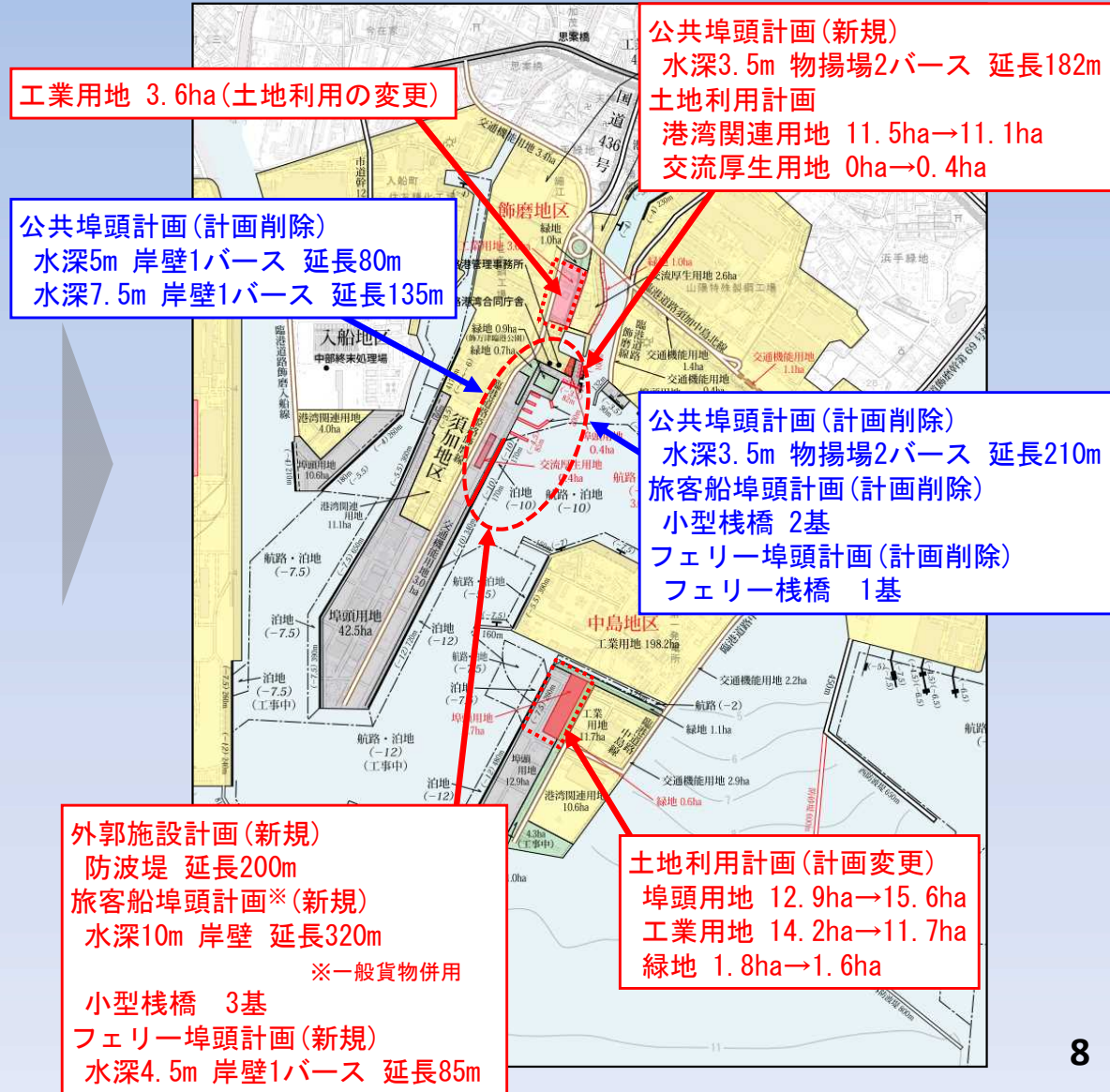
○「姫路港旅客ターミナルエリアリニューアル計画」に基づき、港内の利便性向上、にぎわい拠点づくり、クルーズ旅客の受入強化のため、外郭施設計画、公共埠頭計画、旅客船埠頭計画、フェリー埠頭計画を位置づける。

○中島地区において、不足している埠頭用地を確保し、効率的な埠頭利用を行うため、土地利用計画を変更する。

【既定計画】



【今回計画】

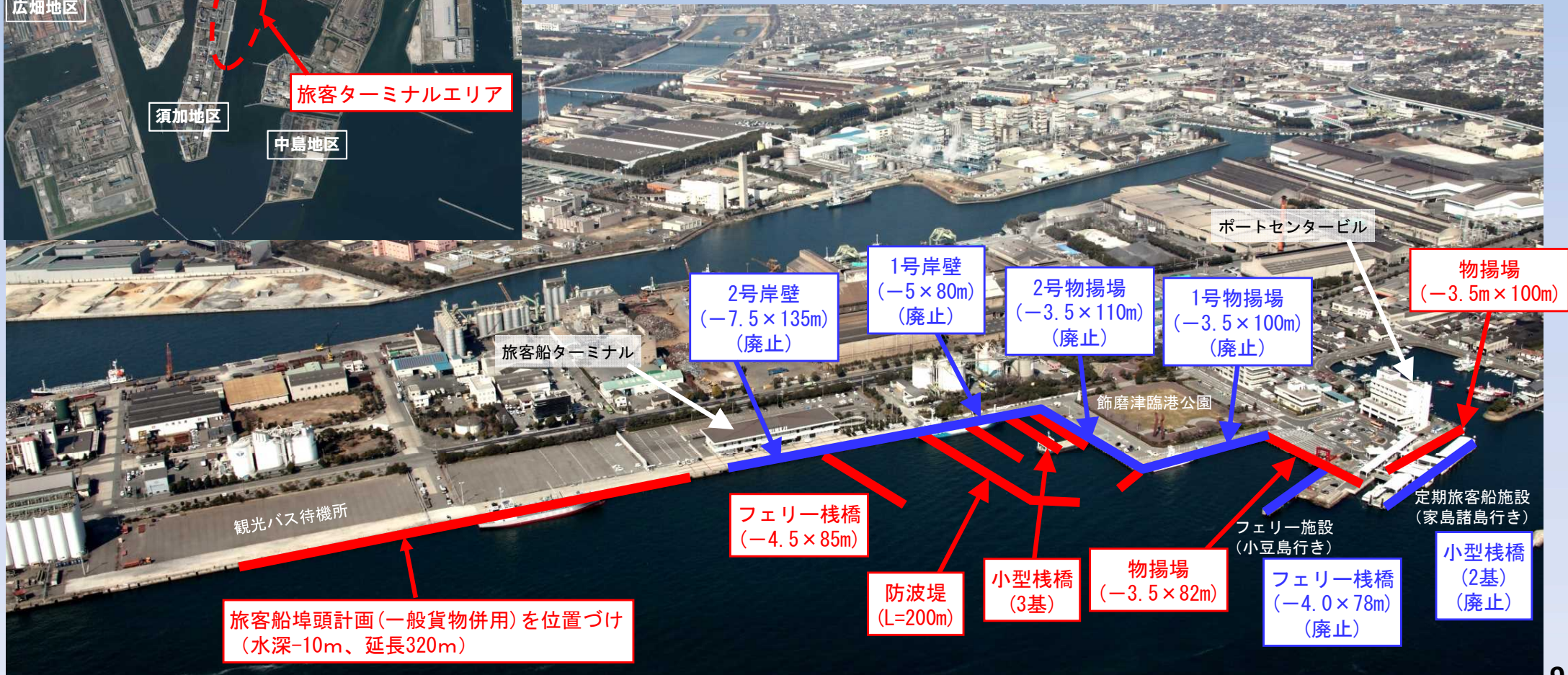


姫路港 港湾計画変更内容（素案）〔飾磨地区・須加地区〕

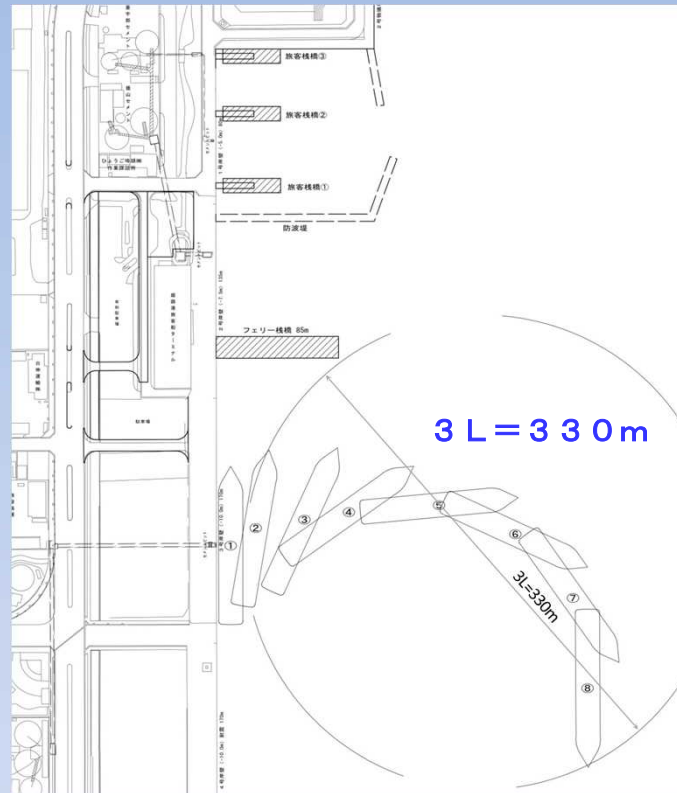
○飾磨、須加地区の定期旅客船やクルーズ船が発着するエリアについて、姫路の海の玄関口としての魅力向上を図るため、旅客船利用者の利便性や快適性の向上、にぎわいの創出など、快適な利用空間の創出を推進する。（平成30年4月に「姫路港旅客ターミナルエリアリニューアル基本計画」を策定）



外郭施設計画、公共埠頭計画、旅客船埠頭計画、フェリー埠頭計画を位置づけ

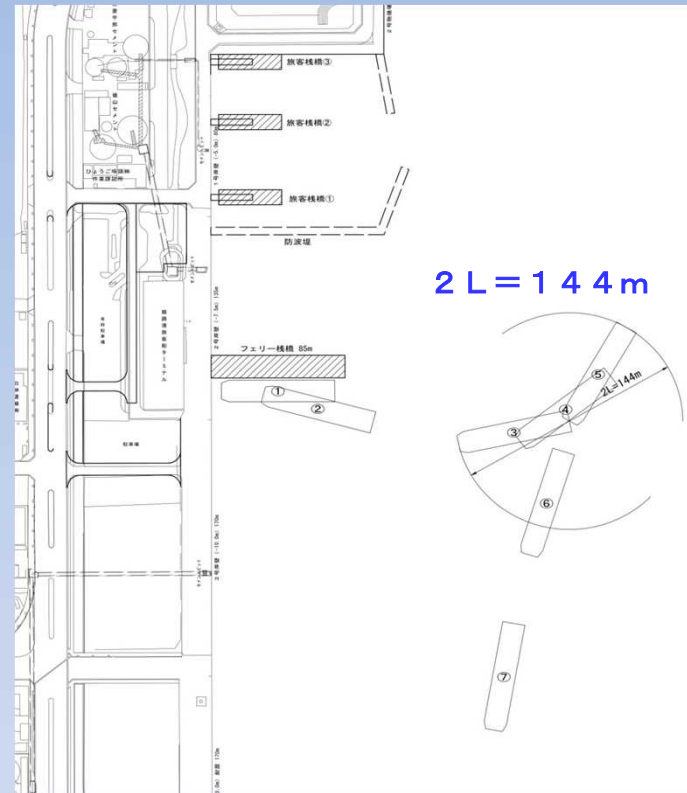


旅客ターミナルエリアリニューアル計画に伴い変更となる貨物船とフェリーの操船例図



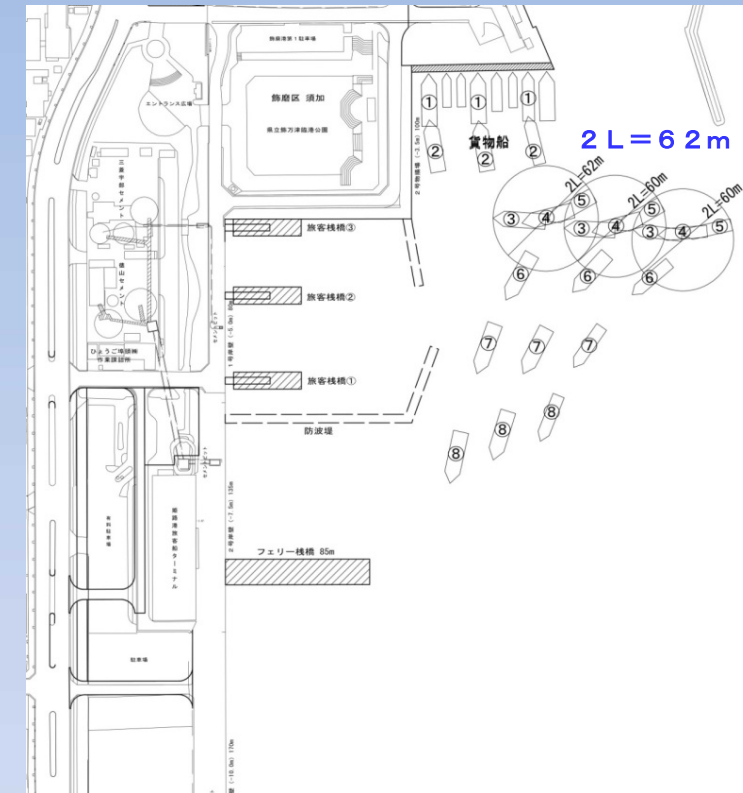
6,000DWT貨物船(セメント船)

全長 : 108m
 型幅 : 17.5m
 満載喫水 : 6.5m



1,326総トンフェリー

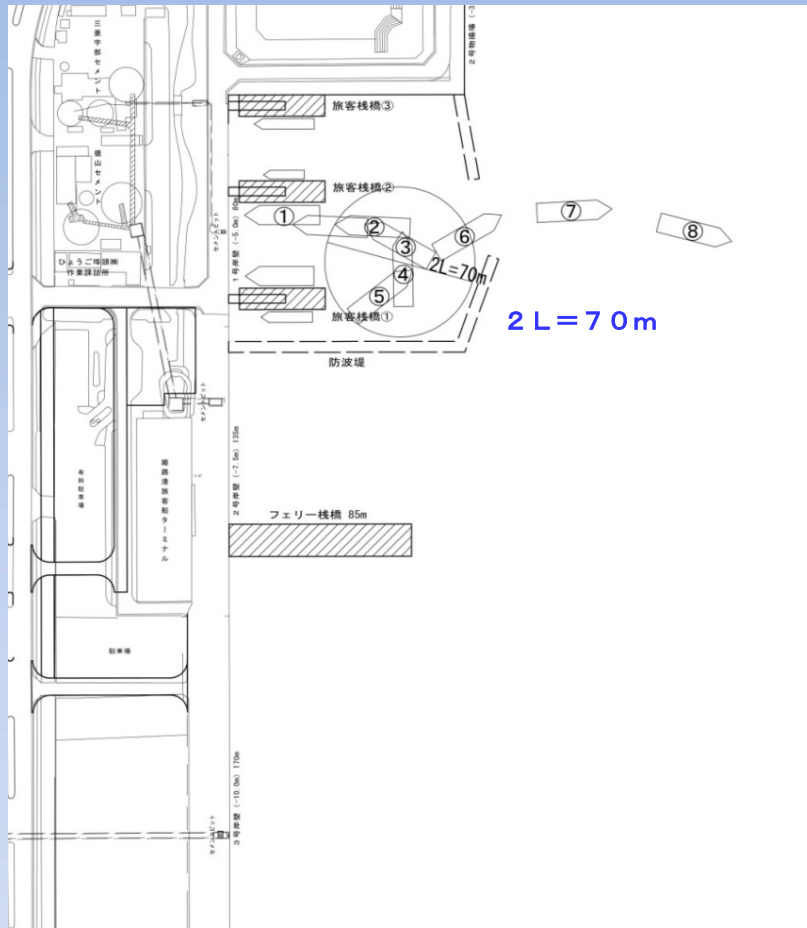
全長 : 72m
 型幅 : 14.4m
 満載喫水 : 3.3m



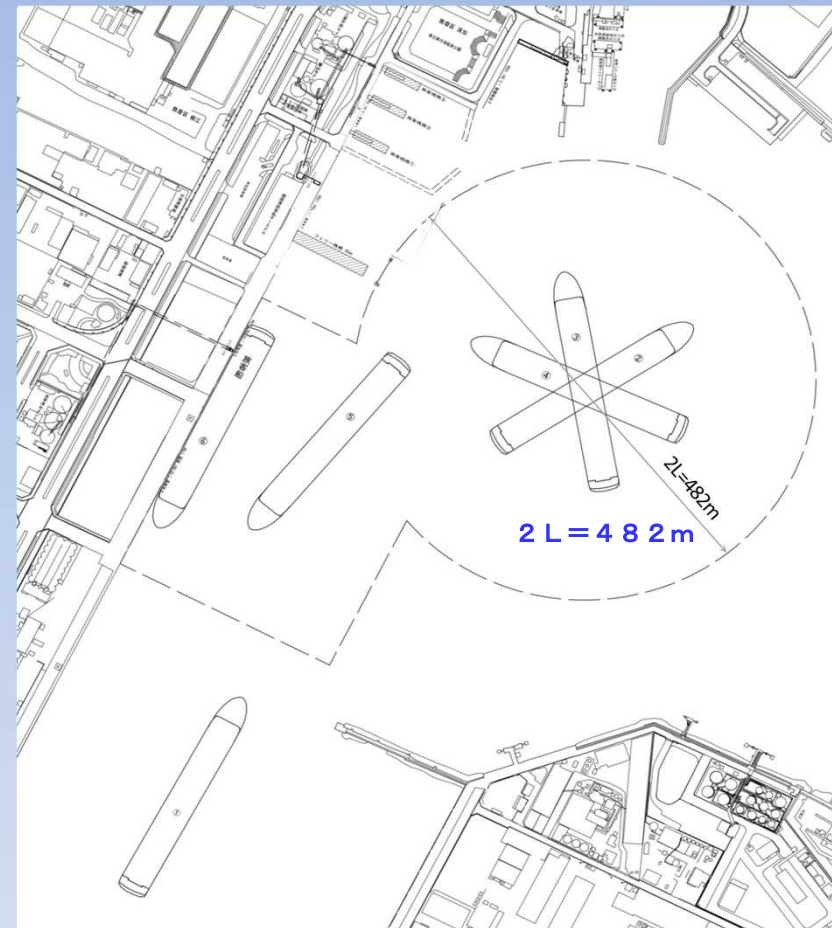
97総トン貨物船

全長 : 31m
 型幅 : 9.0m
 満載喫水 : 2.6m

旅客ターミナルエリアリニューアル計画に伴い変更となる旅客船の操船例図



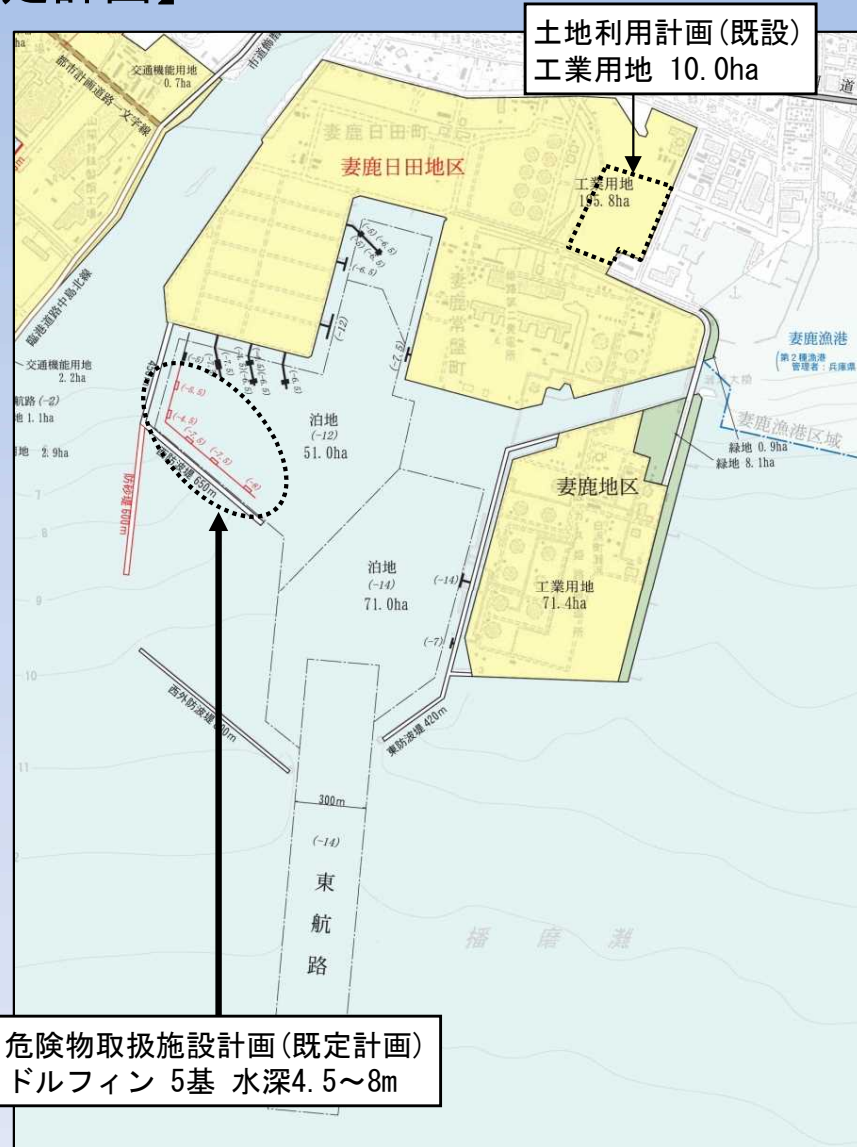
173総トン旅客船	
全長	: 35m
型幅	: 8.5m
満載喫水	: 2.8m



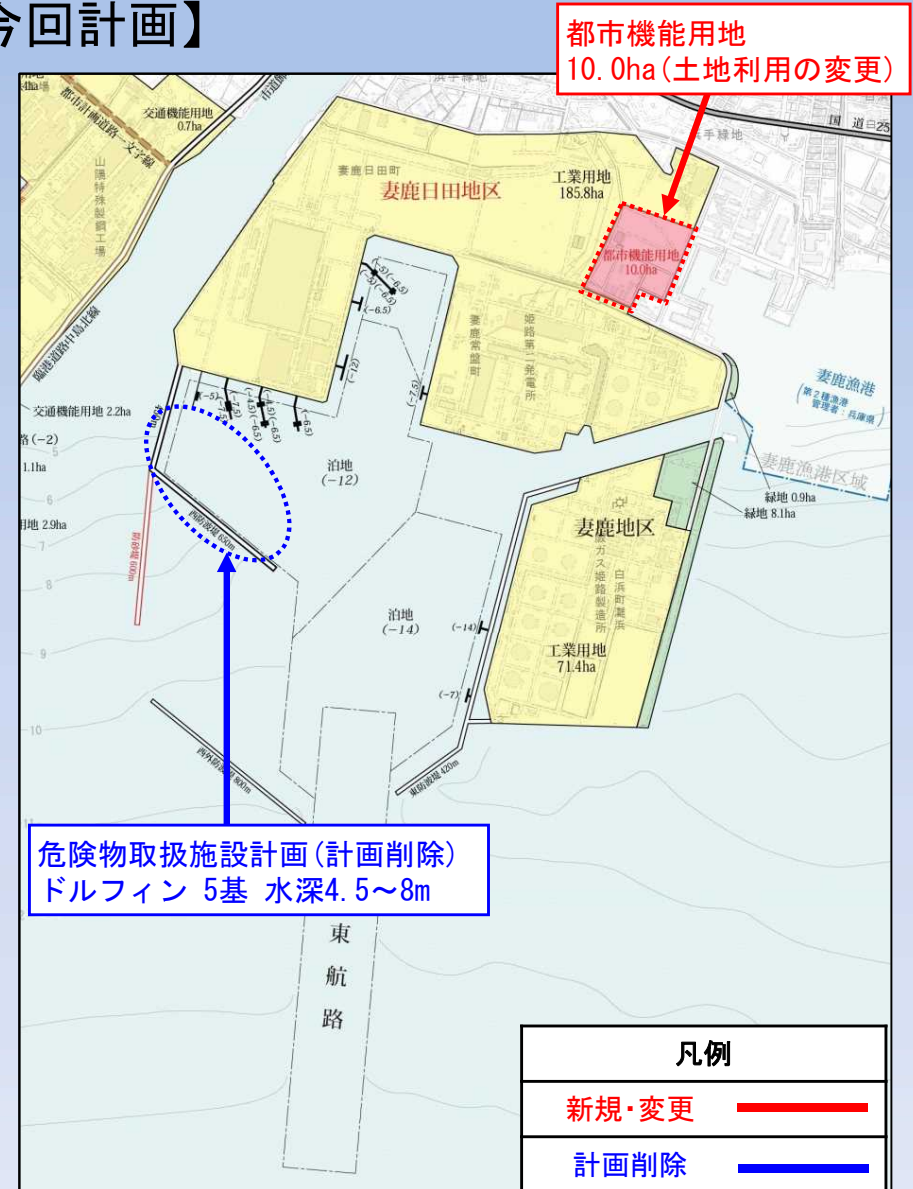
50,142総トン旅客船	
全長	: 241m
型幅	: 29.6m
満載喫水	: 7.8m

○妻鹿日田地区の東部に姫路市中央卸売市場が移転してくることから、移転用地予定地の土地利用計画を変更する。
 ○企業の意向により、未整備の危険物取扱施設計画を削除する。

【既定計画】



【今回計画】

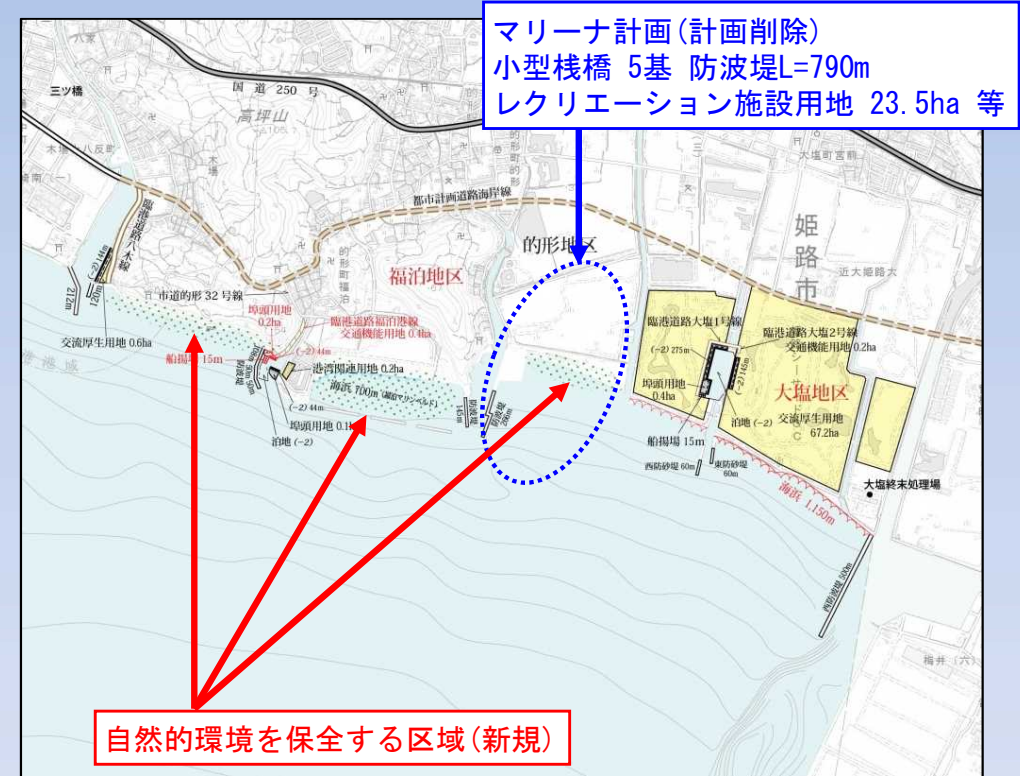


- 姫路港に残されている貴重な景勝、海浜を保全するため、「自然的環境を保全する区域」を位置づける。
- 経済情勢やニーズの変化により事業化の目処がたたないことから、マリーナ計画を削除する。

【既定計画】



【今回計画】



自然的環境を保全する区域 (新規)

凡例	
新規・変更	———
計画削除	———